

平成21年度当初予算 重点的な取組別概要
 < 重点事業 >

くらし11：森林再生「三重の森林づくり」(主担当部：環境森林部)

< 重点事業の目標 >

森林の公益的機能は、すべての県民の皆さんの生活に寄与し、不可欠なものであることから、その機能の維持増進に向けた取組は、緊急かつ着実に進めなければなりません。そのため、喫緊の課題である間伐*を重点的に取り組むとともに、木材需要構造の変化に対応できる安定的な生産供給体制の整備を進めることなどにより、林業を活性化し、適正な森林整備・保全を推進します。

また、生活の中で森林の役割や木を使うことの意義を理解し、多様な主体がそれぞれの役割に応じて互いに協働しながら森林づくりに参画していけるよう、森林文化および森林環境教育の振興、森林づくりへの県民参加推進のためのしくみづくりを進めます。

* 下線部は見直しに伴う変更箇所です。

< 構成事業 (担当部) >

- (1) 環境林整備推進事業 (環境森林部)
- (2) 生産林整備推進事業 (環境森林部)
- (3) 林業担い手育成確保対策事業 (環境森林部)
- (4) 「三重の木を使おう」推進事業 (環境森林部)
- 新 (5) がんばる三重の林業創出事業 (環境森林部)
- (6) 長伐期化に対応した森林管理・中大径材利用技術の開発事業 (環境森林部)
- (7) 多様な主体による森林づくり事業 (環境森林部)
- (8) 「みんなで考える三重の森林」事業 (環境森林部)
- (9) 漁民の森づくり活動推進事業 (環境森林部)
- (10) 森林とのふれあい・学び事業 (環境森林部)

注：新は新たに追加した事業です。

< 重点事業の事業費 >

(単位：千円)

	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
策定時の見込額 1	1,243,843	1,126,000	1,126,000	1,126,000
予算額等 2	989,802	1,471,431 (354,993)	(1,028,519) 992,393	

1 第二次戦略計画策定時における計画記載額

2 H19年度は決算額、H20年度は予算現額、H21年度は当初予算額。20年度の下段括弧書きは19年度からの繰越額で予算現額の内数。H21年度の上段括弧書きはH20年度2月補正分とH21年度当初分の合算額。

< 重点事業の数値目標 > 20年度実績は1月末現在で把握できる見込み値を示しています。

数値目標項目		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
間伐実施面積	目標値	-	8,000ha	8,000ha	8,000ha	8,000ha
	実績値	7,452ha	9,074ha	8,000ha		

県内の民有林で行われる年間間伐実施面積 (環境森林部森林保全室調べ)

< 構成事業の目標 > 20年度実績は1月末現在で把握できる見込み値を示しています。

目標項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
(1) 森林整備面積 (環境林)	目標値	-	2,200ha	2,200ha	2,200ha	2,200ha
	実績値	1,500ha	1,623ha	2,200ha		
(2) 森林整備面積 (生産林)	目標値	-	4,100ha	4,100ha	4,100ha	4,100ha
	実績値	2,780ha	2,841ha	4,100ha		
(3) 林業作業士研修受講者数	目標値	-	10人	10人	10人	10人
	実績値	11人	10人	10人		
(4) 「三重の木」認証材の製材工場からの出荷量	目標値	-	7,000m ³	8,500m ³	10,000m ³	10,000m ³
	実績値	5,137m ³	8,416m ³			
新(5) 集約化による原木の直送量	目標値	-	-	-	3,800m ³	12,200m ³
	実績値	-	-	(現状) 400m ³		
(6) 長伐期化対応の森林管理・中大径材利用技術開発	目標値	-	1件	2件	2件	2件
	実績値	-	1件	2件		
(7) 森林づくりへのサポート回数	目標値	-	5回	5回	5回	5回
	実績値	5回	5回	5回		
(8) 森林フォーラム等への参加者数	目標値	-	700人	700人	700人	700人
	実績値	650人	649人	1,019人		
(9) 漁民の森づくり活動参加者数	目標値	-	270人	330人	370人	420人
	実績値	220人	330人	350人		
(10) 指導者研修会の開催数	目標値	-	3回	3回	3回	3回
	実績値	-	2回	4回		

< 進捗状況（現状と課題） >

- ・長期的に林業の採算性が悪化し、林業経営意欲が低下するなかで、森林整備実施に伴う事業費負担が困難となりつつあることから、適正に管理されない森林が増加することにより、公益的機能の低下が懸念されています。
- ・また、「緑の循環」を進展させるため、「三重の木」認証制度の普及に取り組んだことにより、制度の定着が進み、認証事業者が増加しました。しかし、近年、国産材の需要構造が変化していることから、柱材に加え、合板用材やチップ用材などに木材を多段階利用する、いわゆる「木材のカスケード利用」を進めるとともに、安定供給体制を整備することが必要となっています。
- ・さらに、林業従事者の減少と高齢化が進むなか、森林整備や木材生産に必要な人員・人材が不足しており、林業の担い手育成が必要となっています。
- ・また、健全な森林を次世代に引き継ぐためには、森林づくりや木材利用の意義について理解が一層深まることが重要となることから、森林環境教育を一層進めるとともに、「企業の森」の取組などの多様な主体による森林づくりを推進する必要があります。

<平成21年度の取組方向>

森林の公益的機能の増進をはかるため、間伐を主体とした森林整備に取り組むとともに、成熟しつつある人工林資源の有効利用をはかり、林業・木材産業を活性化するため、森林の団地化により林業の低コスト化を進め、新たに木材の安定的な生産供給体制の整備に取り組みます。

「緑の循環」の進展に向け、「三重の木」認証材のさらなる利用拡大をはかるため、認証事業者の増加を進めるとともに、消費者へのPRの強化に取り組みます。

林業担い手を確保するため、高校生を対象とした職場体験研修による新規就業者の確保を進めるほか、人材育成講師養成研修などによって従事者の技術力向上をはかります。

県民の森林づくりへの理解を深めていただくため、森林公園や学校林での体験学習教室の開催や指導者の養成など森林環境教育に取り組むほか、県民参加の森林づくりのため、森林ボランティア研修や「企業の森」の取組を促進します。

<主な事業>

森林環境創造事業【基本事業名：42201 環境林整備の推進】(事業(1)の一部)

(第6款 農林水産業費 第4項 林業費 9 森林総務費)

予算額：(20) 296,316 千円 (21) 241,968 千円

事業概要：環境林に区分された森林のうち、所有者から20年間管理委託を受けた森林を公共財と位置づけ、森林の公益的機能が持続的に発揮されるよう、間伐などにより針葉樹と広葉樹の混交林への誘導を行うなど多様な森林づくりを行います。

造林事業【基本事業名：42202 生産林整備の推進】(事業(2)の一部)

(第6款 農林水産業費 第4項 林業費 5 造林費)

予算額：(20) 332,626 千円 (21) 342,603 千円

事業概要：森林の公益的機能の高度発揮をはかるため、植栽、下刈り、間伐等の森林整備を促進します。

(新) がんばる三重の林業創出事業【基本事業名：22501 県産材等の安定供給の推進】

(第6款 農林水産業費 第4項 林業費 2 林業振興指導費) (事業(5))

予算額：(20) - 千円 (21) 81,067 千円

事業概要：県産材生産の増大と木材の多段階利用を進めるため、森林の団地化・施業の集約化、高性能林業機械の導入、施業プランナー等の人材育成を進めるとともに、木材流通の改善等に支援することにより、安定的な生産供給体制を整備します。

(森林の団地20か所設定予定、施業プランナー等の人材10人育成予定)

多様な主体による森林づくり事業【基本事業名：42203 森林づくりへの県民参画の推進】

(第6款 農林水産業費 第4項 林業費 8 緑化対策費) (事業(7))

予算額：(20) 2,916 千円 (21) 2,169 千円

事業概要：森林環境に関心を寄せる企業による「企業の森」づくりや、ボランティアによる「ボランティアの森」づくりを促進するため、森林所有者との仲介や技術サポートをします。

また、流域を単位とし、流域の住民、自治体、企業、NPO等と協働し、流域の森林を考える場をつくります。

(企業の森等の取組5取組予定)

森林とのふれあい・学び事業【基本事業名：42204 森林文化および森林環境教育の振興】
(第6款 農林水産業費 第4項 林業費 9 森林総務費) (事業(10))

予算額：(20) 9,069 千円 (21) 7,896 千円

事業概要：森林環境教育を効果的に進めるため、指導者の育成、フィールドの整備、体験教室の開催、学習推進にかかるコーディネートを実施します。また、森林に対する県民の理解を深めるため、森林や木とのふれあいを促進する各種事業を実施します。
(教育の森における活動 11 回予定、木づかいアイデアコンテスト 1 回開催予定)